第21号　城岳同窓会　平成27年９月１日

城岳同窓会総会・懇親会開かれる

■嘉数昇明新会長の就任

平成27年度の総会において、嘉数　昇明氏（14期）が第八代会長として選任されました。

会長就任ご挨拶

一般社団法人城岳同窓会　　会　長　**嘉　数　昇　明**

このたび栄えある城岳同窓会の会長を仰せつかりました那覇高校14期の嘉数昇明です。
どうぞよろしくお願い致します。

副会長　嘉納勝さん（15期）、宮里博史さん（21期）、金城美智子さん（25期）、森田邦弘さん（那覇高校校長・27期）事務局長　與儀幸英さん（20期）をはじめ、顧問、理事、代議員、監事、関東・関西両城岳同窓会、多くの同窓会員皆さんの応援をいただき、″城岳魂″を発揮して、チームワーク良く、母校の発展のため、頑張って参りたいと思います。

わが母校那覇高校は、県都那覇市の真ん中にあって、文武両道を基本に自由闊達な発想と行動力で全県のリーダーシップを担ってきました。

戦前・戦後の県立二中、琉球政府立、県立那覇高校の一世紀余の歴史と伝統を受け継ぎ、2015年3月現在、68期卒業生を以って、42,068人を輩出し、政界のみならず、県内外各界においてリーダー的立場でめざましい活躍をしていることは誠に嬉しい限りであります。

創立100周年の節目の年以来、幸い那高出身の校長先生が連続就任し、学業・クラブ活動面の強化に加え、体育館、新校舎、新グランド整備など念願のハード面、施設整備が完成し、キャンパスの景観・機能が一新されました。

今まさに、これを機に母校の内容の充実発展に向けて力を注ぐ、新しいステージに移る時期到来ではないでしょうか。世界にはばたく人材の育成など、ソフト面の充実強化に力点が注がれることが期待されます。

城岳同窓会としては、学校側との密接な連携の中で、生徒たちの進学学習支援。スポーツ・文化活動支援、留学生派遣支援事業などに、力を入れていきたいと思います。

このような時節の訪れの中で、多くの卒業生が、かつて学んだ母校を訪問する機会をつくる事によって、母校や後輩たちへの強い愛着が生まれ、暖かい激励につながり、教育的支援にも反映されるのではと考えています。そこで毎年の城岳同窓会懇親会の「母校開催」ができないか検討中であります。皆様のご賛同を仰ぎたいと思います。

さて、戦後70年の節目の年、6月23日 慰霊の日、城岳原頭に建立された「二中健児の塔」慰霊塔において、去る沖縄戦において学業半ばにして尊い生命を犠牲にされた二中の先輩方の御霊に、御遺族、二中那高同窓生、教職員、在学生そろって、鎮魂の思いを以って、慰霊祭を挙行しました。　来年以降も大事にすべき周年行事であります。もう1つの周年行事､「首里高校･那覇高校親善スポーツ大会」の開催を通じての両校の絆を更に発展させたいものであります。

それから、最後の官選知事　島田叡氏の縁と二中同士のよしみで、両校100周年の年廻りもあって生まれた旧制神戸二中・兵庫高校同窓会「武陽会」と「城岳同窓会」との交流拡大も進めて行きたいと思います。

最後に、城岳同窓会員皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念し、ご挨拶と致します。

■にぎわった懇親会

毎年卒業30年の同窓生が幹事を務める城岳同窓会懇親会だが、平成27年度は38期生が実行委員（金城竜人委員長）を務め、「二中！！那覇高校でよかったさー」のコンセプトで開催された。総会・懇親会の会場ANAクラウンホテルハーバービューホテルには二中卒業生を含む800名余の同窓生が集う大盛会となった。

懇親会では前七代会長の源河徳博氏の会長挨拶があり、その後会長引継式が行われた。

また、毎年卒業60周年を迎えた同窓生に記念品を贈呈しており、今年は那覇高校8期生が117名が参加し、歴代最多の参加となった。

最後の閉会の辞では次回実行委員長城間正史（まさふみ）から「平成28年度は私達那覇高39期生が実行委員となり先輩方をお迎えします。」との決意表明があった。

次年度の同窓会総会、懇親感が楽しみだ。

平成27年度実行委員幹事を務めた38期生のメンバー

卒業60周年を迎えた那覇高校8期生117名

次回実行委員幹事を務める39期生のメンバー

■二中健児の塔清掃活動

従来行われていた「二中前クリーン作戦」を「二中健児の塔清掃活動」に名称を変更し、6月22日開催された。城岳公園を割り当てられた三年生も、暑い中汗を拭きながら清掃活動を行った。

■二中健児の塔慰霊祭

6月23日の慰霊の日、城岳公園の「二中健児の塔」で行われた70年目の慰霊祭には、ご遺族はじめ429名が参列した。

70年前を思い合掌する同窓生たち

同世代の悲しみを胸に非戦を誓う那覇高生

那覇高校生徒の活躍

女子バスケット部

全国高等学校総合体育大会・女子バスケットボール大会が平成27年７月28日～８月３日まで京都府立山城総合運動公園体育館で開催され、明成高校（宮城県）と対戦したが、厳しいディフェンスに阻まれ、惜しくも１回戦で涙を呑んだ。

ボクシング部

全国高校総体ボクシング大会が平成27年７月29日～８月３日まで兵庫県立総合体育館で行われ、新垣壱季選手はライトフライ級１回戦で城北高校（鳥取県）との１回戦判定で惜敗した。

男子サッカー部

全国高校総体男子サッカー大会が平成27年８月２日～９日まで兵庫県三木総合防災公園第２陸上競技場で行われ、尚志高校（福島県）と対戦し４対０で敗れた。

弓　道　部

全国高校総体弓道大会が平成27年８月６日～９日まで奈良県吉野運動公園総合体育館で行われ、松田清爾選手は男子個人戦準決勝に進んだが緊張し、放った矢が初めて的を外れ４射３中で決勝進出を断念した。

那覇高校グラウンド完成記念

空から見た那覇高校校舎の移り変わり

戦後の那覇高校をその時々に撮影した空中写真を元にたどってみる。

1958年

那覇高創立10周年記念事業として運動場のスタンド建設された当時の写真。グラウンドの後ろが一塁側スタンド、左側が三塁スタンドとなっている。バックネットや本部席、ダグアウト、スコアボードも完備され、公式野球場及び公式球場として使用された。

1966年

左上の城岳会館（1956年竣工）は大ホール付き同窓会館。三階建てのコンクリートブロック建てのＢ校舎（1963年）に続き、C校舎（1964年）、Ｄ校舎（1965年）とコンクリートブロック校舎が建設された。

1984年

1960年代に建設されたコンクリートブロック校舎（旧Ａ、B、Ｃ、Ｄ校舎）が壊され、新しく四階建ての新Ａ、B、Ｃが建築された。城岳会館も取り壊されている。体育館は1973年、Ｉ校舎は1974年、本館は1975年に建設された。

2003年

1980年代に建設されたコンクリート校舎もすっかり古くなっている。Ｉ校舎は残っているが、本館が壊され、Ｉ校舎への渡り廊下が設置されている。

2013年

新体育館が建築され、元グラウンドの場所（左側）に新校舎が建築され、新校舎での授業がスタートした。右側の旧校舎はまもなく撤去される。新旧校舎が並んだ珍しい写真。

2015年

旧校舎が壊されて、新しいグラウンドが完成した。これで増改築工事は完了した。

島田叡氏記念碑建立（平成27年6月26日　奥武山運動公園内）

―顕彰碑除幕式典から―　今に生きる島田叡知事の崇高な人間愛

35度を超す猛暑、ゲリラ豪雨、立て続けに発生した台風等々、日本列島は、この夏も政局とあわせて異常な気象に悲鳴をあげている。そんな最中、平和と友愛のメッセージを発信し、心揺さぶられる式典が行われた。

その式典は、去る6月26日「沖縄の島守」として、いまなお多くの県民に敬愛され、その崇高な人間愛が語り継がれている島田叡氏の「心刻む顕彰碑」の除幕式である。当日は、炎天のもと井戸敏三兵庫県知事を団長とする兵庫県民代表団をはじめ、県内外から約400名の参加があり、あらためて「牧民官・　島田叡」の遺徳を偲び、若い世代へ「命どぅ宝」のメッセージを語り継ぐものであった。式典は、那覇高校合唱部の斉唱「島守の塔賛歌」に始まり、同吹奏楽部・野球部の「旧制神戸二中校歌」「栄冠は君に輝く」で閉めた。現代に生きる若い高校生の溌剌した演奏は、この地で眠る島田叡氏の若き日の姿を彷彿させ、参列した皆さんに多くの感動を与えた。

式典の中で、いみじくも井戸兵庫県知事、翁長雄志沖縄県知事は「戦後70年・没後70年の今年、改めてその深い人間愛と郷土愛、最期まで県民を守ろうとした生きざまを学び、次世代へと語り継がなければならない」と述べた。

左から勝順一武陽会理事長、石川憲幸兵庫県議会議長、井戸敏三兵庫県知事、翁長雄志県知事、喜納昌春県議会議長、嘉数昇明顕彰期成会会長

「島守の形見に　誰もが涙せん　崇める気持ち　赤裸に出でん」と自作の歌を披露した井戸兵庫県知事の思いは、阪神・淡路大震災から二十年、当時知事の任にあった貝原俊民氏が「極限状況にあっても人間性を失うことなく、自分の食事を病人に分けたり、苦役作業にも厭わずに、文字どおり県民と苦難を共にした島田知事から、民政官としての知事の責任は、県民の命に対してはもちろん、郷土の一木一草まで及んでいることを教えられた」と述懐したことに重なる。

井戸敏三兵庫県知事から「詩」が嘉数昇明顕彰期成会会長に贈られる

更に、この式典に島田知事と「二人三脚」で奔走し共に「島守」と慕われる荒井退造警察部長の郷里・栃木県からの参加も特筆される。奇しくも今回、本県野球の聖地、奥武山運動公園内に顕彰碑をはじめとするトライアングルの「友愛ゾーン」が出来た。その三角形を起点に、次なる三角形を兵庫－栃木－沖縄に築かねばと考える。測量の現場では、細部に

わたる図面を描くには、測量の基本としてまず骨組測量を行いそれを起点に細部測量を行う。骨組は、基線をもとにして三角形（一等三角点網）を組み、その三角形の一片から次なる三角形を順次組みながら骨格を拡大していく。兵庫と沖縄では点と線でしか結べない。しかし、新たに栃木という点を加えることによって三角形が組め、面が出来る。

今後、島田叡、荒井退造両氏の足跡を後世に「真の日本人」として語り継ぐ運動を、兵庫・沖縄県のみならず全国に展開するため三角網を広げながら、全国を網の集合で履い尽くす、新たな事業の一歩として踏み出したい。なお、今般の顕彰事業は、決して個人を美化するのでなく、理不尽がまかり通るこの時代に至誠をもって民政の安定に努めた為政者がいたという事実から「この人の名も！」という思いが強くある。

結びに、期成会組織の中核をなす城岳同窓会から、事務所の提供、寄附金拠出等々全面的に多大な協力があり、本同窓会なしにはこの事業の成功はなしえなかったことを申し添え、会員一同に感謝を申し上げたい。

（文責　島田叡氏事跡顕彰期成会・事務局　名嘉山興武）

第七期A氏奨学生決定

A氏奨学生は平成20年度からスタートし、本年で７年目になり16名に奨学金を給与し、今年は第７期生として３名が選考され、19名となった。

左から
五所（こしょ）　明梨（あかり）さん
（高知大学人文学部人間文化学科）、
具志堅（ぐしけん）　航平（こうへい）君
（筑波大学人文・文化学群人文学類）、
石嶺（いしみね）　海（がい）君
（琉球大学医学部保健学科）

城岳賞に女子バレーボール部が決定

全日本高等学校選手権・県代表決定戦で48年ぶりに優勝した、女子バレーボール部に城岳賞を贈呈しました。

城岳同窓会館のご案内

「母校に同窓会館を」との声が同窓生の間から叫ばれ、同窓生各位のご尽力により平成８年に実現しました。会館は同窓会員の親睦の場です。会員のみなさん！どうぞご利用下さい。

・２階は二中・那覇高の歴史を後世に語り継ぐ資料展示室及事務室。
・３階は会員のクラス会、会議、趣味の集まりなどに利用でき、収容人員は50人です。
　なお、使用料金（光熱費）は１団体：１時間800円です。
・４階は自学自習室として、学校が活用しています。

事務局だより

一般社団法人城岳同窓会は会員相互の親睦を図るとともに、那覇高等学校の発展に寄与すること及び地域社会に貢献する事を目的としております。また、本会の経費は会員の拠出金、寄附金、事業収益金及びその他の収入をもって充ております。

さて、会員の拠出金は、年会費1,000円または、終身会費5,000円によって賄われております。年会費を一括で5,000円を納入した場合は、終身会費と見なし、以後年会費は徴収致しません。

伝統校の誇りと自信に満ちた校風の継承と発展の為、同窓生一人ひとりの積極的なかかわりとご芳志をお願い致します。

振　込　先：琉球銀行樋川支店　店番号314　口座番号　普通338301
口座名義人：一般社団法人城岳同窓会　会長　嘉数　昇明（かかず　のりあき）
ご芳名の前に卒業期をご記入下さい。
問 合 わ せ：一般社団法人城岳同窓会　事務局　與儀　幸英
〒900-0014　沖縄県那覇市松尾１丁目21番53号
TEL（FAX）：０９８－８６７－２５２５

城岳同窓会から学校への支援事業

１．奨 学 金	1,700,000円	（A氏、海外留学）	
２．教育奨励	200,000円	（首里高とのスポーツ交流）	
３．慰 霊 祭	700,000円	（二中健児の塔）	
４．行事補助	20,000円	（部活動補助）	
５．城岳講座	40,000円	（講師謝礼）	
６．教育補助	490,000円	（城岳みらいツアー	200,000円）
		（卒業証書用丸筒	70,000円）
		（終身会員証	40,000円）
		（二中健児の塔清掃活動	30,000円）
		（自学自習室利用補助	100,000円）
		（城岳賞	50,000円）
合　　計	3,150,000円		

城岳同窓会ホームページ
http://www/jogaku.or.jp

城 岳 同 窓 会 会 報
編集発行　城岳同窓会　〒900-0014 沖縄県那覇市松尾1－21-53　電話・FAX 098-867-2525
E-mail : yogi@jogaku.or.jp